

令和2年度 学校評価結果

千葉県立松戸六実高等学校

※新型コロナウイルス感染症はコロナと表記している。

領域	自己評価の結果（達成状況、結果の分析） ※下線部は令和2年度新規に実施した取り組みや達成状況	改善方策 （自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ （課題と次年度に向けた改善策）
学校経営	<p><b>1 グランドデザイン（学校教育全体構想図）作成を通じ、カリキュラム・マネジメントの推進体制確立</b>                      ①4月に職員アンケート、1～2学期に管理職で業務視察を実施した。                      ②<u>グランドデザインの作成を目指し、12月に情報共有会を実施した。</u>                      ※職員全体で目標を共有できるグランドデザイン作成している。</p> <p><b>2 地域に開かれた学校づくりの推進</b>                      ①開かれた学校づくり委員会主催のミニ集会において本校の課題を協議した。                      ※<u>しっかり授業を受けられる六実生の一步先の姿を議論した。</u></p> <p><b>3 業務改善を通じた学校における働き方改革推進</b>                      ①部活動ガイドラインを見直した。月ごとに計画と実績を報告して趣旨を踏まえた活動を意識した。                      ②<u>タイムレコーダーによる勤務時間管理を導入した。45時間以上の超過は微減にとどまっている。</u>                      ③<u>モラルアップ委員会から「定時退勤の日の設定」提案した。これからの活用が期待される。</u>                      ※教職員学校評価アンケートR2追加項目「業務改善及び教職員の働き方の意識改革が進められていると思いますか」の肯定的回答37.7%</p>	<p>1 2022年度入学生から年次進行で実施される新学習指導要領を踏まえて、これからの時代に求められる六実生の資質や能力及び学び方について校内でさらに議論していく。</p> <p>2 今後も、より良い学校教育を通じてより良い社会を創ることを目指して、地域との連携と協働を推進していく。</p> <p>3 働き方改革として新しい取り組みが導入されたが職員の負担は減っていない。時間や労力の短縮につながる業務改善を行う。また、引き続き様々な方法で職員ひとりひとりの意識改革を図る。</p>	<p>1 新学習指導要領の主旨を踏まえ、世界に羽ばたく六実生を育成して欲しい。</p> <p>2 柏市からも出席してもらった方が多い。多くの委員が参加できるよう開催日の調整が必要だ。</p> <p>3 すぐには変わらなくてもやっていると少しずつ変わってくると思う。生き生きとした働き方ができる環境を整えていただきたい。</p>	<p>1 次年度にはグランドデザインを作成し、職員全体で目標を共有して教育活動を実践する。</p> <p>2 開かれた学校づくり委員会の運営を工夫して幅広い御意見を学校運営に活かしていく。</p> <p>3 さらに業務改善、意識改革を推進し、職員アンケートの働き方改革に対する肯定的回答50%以上を目指す。</p>
学習指導	<p><b>1 学習支援ソフトの活用による生徒の学びに向かう姿勢の改善</b>                      ①<u>コロナ休校期間や夏休みは、課題等で学校全体としてClassiを活用した。</u>                      普段の授業期間は、Classiの活用は一部の授業や集団においてだけにとどまっている。</p> <p><b>2 職員の授業力向上を目指した取り組みを通じ生徒の基礎学力及びの学びに向かう姿勢の改善</b>                      ①学びの基礎診断テストを1学期に実施した。                      ②全職員による計画的な相互授業参観を2学期に実施した。                      ③生徒による授業アンケートを2学期に実施した。  <u>学習指導に満足している割合（目標80%）が、生徒75.9→80.0%、保護者63.1→70.5%に上昇した。</u></p> <p><b>3 全職員による「学びの保障」の実現</b>                      ①<u>コロナ休校を踏まえて、学習指導計画を修正実施した。概ね昨年度と同等の授業時数が確保できた。</u>                      ②<u>コロナ休校後はClassiの十分な活用はできていない。</u></p>	<p>1 今後は家庭学習の教材の一つとしてもClassiを活用していく。次年度に向けて、別の学習支援ソフトの活用を検討する。</p> <p>2 生徒からの学習指導満足度が目標の80%になった。職員が自分の授業を客観的に評価し改善できるような様々な取り組みを継続する。</p> <p>3 全体としてはコロナ休校の影響を最小限にとどめることができた。コロナ関係で出席停止となる生徒に対して学びの保障の充実を図る。</p>	<p>1 生徒の個別最適化な学習のためにも積極的な活用を願う。</p> <p>2 すばらしい結果だ。100%を目指して欲しい。授業を客観的に評価して改善できるような取り組みを継続することが学習指導満足度に繋がる。</p> <p>3 異議なし。今後のコロナ感染拡大状況を十分警戒して学習指導計画をすすめてほしい。</p>	<p>1 学習支援ソフトを活用し、学習習慣の確立と学力向上を目指す。</p> <p>2 引き続き、全職員が研修や振り返りを通して授業力向上に努める。</p> <p>3 情報通信技術の本校での活用の仕方を整理し、日常から積極的に取り入れ、非常時にも学びを保障する。</p>
生徒指導（教育相談）	<p><b>1 教育相談体制や特別支援教育推進体制を構築し、生徒の心のケアを重視する。</b>                      ①「教育相談情報交換会」を各学期末に開催し、生徒の状況を共有した。                      ②<u>特別な教育的ニーズのある生徒に、家庭と連携のもと、個別の教育支援計画を作成した。</u>                      ※教育相談職員研修、悩みのある生徒をスクールカウンセラーに繋ぐなど、心のケアを重視している。                      ※<u>学校評価アンケート「先生は悩みや相談に親身になって対応してくれる」の肯定的回答が8割超えた。</u>  <u>生徒H30 75.2%、R1 75.7%、R2 83.4% 保護者H30 75.8%、R1 77.7%、R2 84.0%</u></p> <p><b>2 遅刻指導、交通安全指導を重視し、自律性の育成を目指す。</b>                      ①始業ギリギリに登校する遅刻者に毎日指導した。<u>大幅に遅刻する生徒が一定数いる。</u>                      ②交通安全教室など、外部講師を招いての交通安全指導が新型コロナの影響できなかった。                      ※<u>交通事故の多くは、自転車乗車中の自らの不注意の単独事故であった。（9件中6件）</u></p> <p><b>3 「学校における新たな生活様式」を踏まえた保健指導の徹底</b>                      ①HR、授業、学校行事、部活動等、全ての場面で繰り返し基本的な感染予防対策を指導した。                      ②健康観察表やClassiを活用して健康観察の徹底を目指したが100%には至っていない。                      ③保健委員会生徒や養護教諭の協力により、視覚に訴える掲示物を作成した。</p>	<p>1 問題を抱える生徒を早期に発見して寄り添った支援ができていたので、今後もスクールカウンセラーや相談員との協力体制を継続する。特別支援教育をさらに充実させる。コロナで問題が顕在化される生徒に注意する。</p> <p>2 「ギリギリ」「うっかり」遅刻する生徒だけでなく、「大幅に」「繰り返し」遅刻する生徒もいることが分かった。調査して対応する。自転車事故防止対策を図る。</p> <p>3 手洗いや健康観察等を、できない生徒やできていたがやらなくなってしまう生徒がいる。危機感を伝え、繰り返し指導する。</p>	<p>1 生徒一人一人が抱える問題を早期に発見する生徒全員のアンケートはすごく良いことだ。コロナ感染発生の際は、心のケアや差別的な言葉やいじめ等がないよう指導を徹底していただきたい。</p> <p>2 遅刻の原因を解明し迅速に対処してほしい。交通事故発生時、学校全体で情報共有する必要がある。</p> <p>3 集団生活はクラスターのリスクが高いので、更なる感染予防対策の徹底指導を引き続き図っていただきたい。</p>	<p>1 引き続き、生徒情報の日常的な共有化に努める。スクールカウンセラーや相談員との協力体制を継続する。</p> <p>2 生徒の実情に応じて指導し遅刻数を減少させる。本校の実情に合わせた交通安全教室を開催し、事故を未然に防ぐ。</p> <p>3 保健厚生部中心に感染症対策を年間計画に入れて、全校での保健指導体制を整える。</p>

領域	自己評価の結果（達成状況、結果の分析） ※下線部は令和2年度新規に実施した取り組みや達成状況	改善方策 （自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ （課題と次年度に向けた改善策）
キャリア教育	<p><b>1 基礎学力の向上を図り、生徒の進路実現を達成する。</b></p> <p>①進路説明会 1年生対象を2回、3年生対象を3回実施した。</p> <p>②進路ガイダンス 2年生対象を1回実施した。公務員ガイダンスを6回実施した。 保護者対象・職員対象のガイダンスは実施しなかった。 <u>教員志望生徒（22名）に対し、県教委主催出前授業「せんせいっていいもんだ」を実施した。</u> <u>キャリア・パスポートを活用し、全生徒が年4回、自身の変容や成長を振り返り記録した。</u></p> <p>※例年、学年段階別・進路希望分野別の説明会・ガイダンスは体系的に20回以上を目標に実施していたが、コロナの影響で縮小せざるを得なかった。</p> <p><b>2 生徒一人一人の自己実現のため進路指導の充実を図る。</b></p> <p>①インターンシップ 夏季（看護体験等の3事業所）は中止した。 冬季（小学校）は中止した。</p> <p>②ボランティア活動 部活動ごとに通学路清掃を実施した。 赤い羽根募金に参加した。 JRC部が、一人暮らしのご老人宅にお花とメッセージを届ける活動をした。 <u>体育の生涯スポーツ選択者が「2020ちばおもてなし隊」へ参加した。</u></p> <p>※例年、インターンシップ60名以上、ボランティア10回以上を目標に実施していたが、コロナの影響でイベントが中止になったり受入れ不可になったりして大幅に縮小した。</p>	<p>1 大人数が集まったり外部講師に依頼したりするガイダンスが開けずに、個別に校内の人材で生徒・保護者へ進路情報を提供した。新しい時代の進路指導についてさらに工夫していく。 今年度からスタートした「キャリア・パスポート」の成果や課題を精査し次年度の実施に活かす。</p> <p>2 インターンシップやボランティア活動が、最もコロナの影響を受けた。それぞれキャリア教育に欠かせない活動なので、つながりを残しながら新しい参加の形も模索していく。 六実地区子育て井戸端会議主催「六実っ子まつり」の代替企画（広報誌のイラスト提供や「井戸端チャンネル」での部活動動画配信など）にはできる限り参加し、地域活動の活性化に協力していく。</p>	<p>1 基礎学力の向上を具体的にどうするのか。オール六実で取り組まなければならない。 状況が状況ではあるが、「できない」で片づけるのではなく、少しでも取り組める何かを工夫して欲しい。</p> <p>2 これからも外で学ぶ機会を大切にして、多様な価値観を身に付けさせてほしい。 コロナ禍で、例年実施していることを縮小しなければならない状況であったが、生徒のマイナスにならないよう努めていただきたい。</p>	<p>1 「学びの基礎診断」「実力テスト」「キャリア・パスポート」の活用により生徒の学習意欲を喚起させ、学習支援ソフトを組織的に活用し、基礎学力の向上を図る。 コロナ禍を踏まえて、ICTを活用したガイダンスを導入する。</p> <p>2 保育・介護・小学校でのインターンシップ等の職業理解を深める活動を途切れさせずに継続させる。 ボランティア活動も、つながりを残しながら、コロナ禍でもできること探して積極的に取り組めるよう支援する。</p>
	特色ある教育活動	<p><b>1 部活動等において、他者を認め、人権を尊重する人材を育成する。</b></p> <p>①あいさつや清掃活動 特に部活動単位で活動している時に、多くの生徒が率先して挨拶をしていた。 学期ごとに分担して各部が最低1回は地域清掃活動に取り組んだ。野球部は日常的に取り組んだ。 <u>清掃活動用のビブスを作製した。</u></p> <p><b>2 中学校や家庭、地域に本校の教育活動を正確迅速に伝え、より緊密な協力体制を構築する。</b></p> <p>①地域との交流 地域の行事が全て中止となり、ほとんど交流ができなかった。</p> <p>②ホームページの記事更新（六実トピックス R1 52件→R2 65件 4月～12月） <u>コロナ関係で、ホームページに情報をアップし、メール配信システムで周知することが多かった。</u> <u>中学生対象の学校説明会にホームページを活用した。夏：紹介動画 秋：申込受付</u> 部活動や学校行事の情報を随時更新した。</p> <p>○ <b>校内美化について（学校評価アンケートに基づいた課題）</b> <u>校内美化に関するアンケート項目を変更した。</u> <u>私物の床置きや昇降口以外からの出入りを指導して改善した。</u> <u>従来の方法や用具を見直して学校全体で清掃や消毒に取り組んだ。</u></p> <p>※昨年までの「校内がきれいである」では、校舎の築年数を考えると“きれい”と回答すること自体に無理があると考え、「校内清掃が行き届き整理整頓されている」とした。この結果、肯定的回答数が、生徒 22.9→57.7%、保護者 48.4→73.6%、職員 30.7→55.7%に上昇した。</p>	<p>1 あいさつや清掃活動を継続する。部活動単位でなくても、全校生徒が日常的に挨拶できる学校を目指す。</p> <p>2 ホームページに情報をアップするだけでなく、オンライン説明会をしたり、学校説明会の参加人数を集約したり、休校中の課題の自己評価を生徒がフォームで送ったり、といったことにもホームページが活用された。今後も新しい生活様式での情報伝達方法を工夫していく。</p> <p>○ 校内美化について「清掃が行き届き整理整頓されている」ことを目指し、今年の数字から肯定的回答数を伸ばして80%に達するように引き続き取り組んでいく。</p>	<p>1 あいさつは基本であり、今後も継続して取り組むべきである。地域の清掃活動は、地域全体の活性化にも繋がり、学校全体の評価が上がる。</p> <p>2 地域のイベントには、言われるまで待っているのではなく、学校側から積極的に参加してほしい。 コロナ禍ではどのように情報を発信していくが課題で、様々な方策を模索する必要がある。</p> <p>○ アンケート項目の見直しは良いことだ。まず生徒一人一人が身の回りからきれいにしていくことが大事だ。</p>

